



第 57 号

編集室 〒794-2114
愛媛県今治市吉海町
名2916-2 高龍寺内
TEL 0897-84-2129
FAX 0897-84-4495
Eメール chiho@mg.pikara.ne.jp
責任者 鴨井 智峯

大修理落慶法要の御礼……………2

ラオス巡拝の思い出……………4

暑中お見舞い申し上げます

高龍寺 院家



高龍寺施餓鬼法要

8月18日(金)午後6時

ラオス巡拝の思い出



友人住職やその檀信徒さん、そして高龍寺の檀家さんも参加して総勢二十三名でラオスに行ってきました。ベトナムの西に位置するラオスはメコン川が流れる内陸部の小さな国で、経済的には発展途上ではありますが、国民の多くが農業に従事している関係からか、物乞いのような方を目にすることは殆どなく、敬虔な仏教徒の国でした。

一週間の日程で旅をする私たちは、タイのバンコクで飛行機を乗り換え、ラオスの首都ビエンチャンに降り立ちました。首都といっても小さな国ですので高層ビルがある訳でもなく、世界最後の田舎と言われることを実感しました。しかしそれにしてもまだこの時季なのに、日中の気温三十九度には初日から閉口です。

ラオスは上座部仏教の敬虔な信者さんが多く、従って祀られる仏様はお釈迦様がメインなのですが、両手を前に出した見たことのない印相の仏様が気になりガイドさんに聞きますと、度重なる他国からの侵略の歴史の中で、殺生は止めて下さいという思いを仏の姿として現したという説明に、ラオスが辿った苦難の歴史を想ったのでした。

また訪れた古都ルアンパバーンでは、毎朝5時から行われる修行僧の托鉢を体験させていただくこともでき、この地に住む人々の穏やかさの根源を見ることができました。

大阪大学の竹文雄教授が一万九千人対象に幸福度を調べたところ、幼少期に寺院の近くで育った経験のある方が成人しても幸福度や利他の心が高くなるという調査結果を発表しました。その記事を読んだ時に、ラオスの人々の穏やかな様子を思い浮かべたことは言うまでもありません。



修復落慶法要の始まり



御室派愛媛支所で結成された御室太鼓



本尊様への御法楽



フラダンスチームの踊り



褒賞状贈呈

大修理落慶法要の御礼

盛夏の頃となり暑さ厳しき日が続いておりますが、高龍寺檀信徒の皆様には愈々ご清業のことと拝察いたします。さて一昨年より「高龍寺平成の大修理事業委員会」を組織し、事業計画また勸募活動として工事発注と本体工事へと目まぐるしい二年間でしたが、皆様の協力と建設業者さんの卓越した技術と献身的な工事で、見事に修復工事が終わられたことは、住職としてこの上ない歓喜でございます。重ねて篤くお礼申し上げます。

そして平成二十九年四月二十三日には、雲一つない晴天にも恵まれた中、修復落慶法要を無事に執り行うことができ、境内が一日法悦歓喜に包まれたのでした。

落慶法要は、御室派愛媛支所で結成された御室太鼓と法友の方々の法螺により始まり、結衆寺院が入堂し本尊様への御法楽を称えましたが、般若心経三巻を太鼓と法螺に合わせてお勤めしましたら、太鼓に合わせて境内中に響き渡る般若心経の大合唱を全身で体感し、この場に集う人々の思いが完成へと導いたと、本尊様と檀信徒様への感謝の法悦歓喜を感得しました。

式典では真言宗御室派宗会議長でもある大聖院吉田正裕僧正による記念法話に続き、この度総本山仁和寺管長立部祐道猊下からお二

の寺総代池田啓二氏と村上肇氏に褒賞状を賜ることとなり、その伝達をさせて頂きました。また個人的に永年お付き合いさせて頂いている参議院議員山本順三氏の祝辞も頂戴し、厳肅な中にも和やかな記念式典となりました。

法要式典に引き続き、本堂では三味線の奉納に、二組のフラダンスチームが数曲ずつ踊りを奉納下さり、一見、お寺にフラダンスと相反するとも思えた二つが見事に調和し、瀬戸内の島にハワイの穏やかな空気が流れ、境内に笑みがこぼれました。

綺麗に修復された客殿の座敷には、松山市在住の画家森ゆだね氏が描かれた襖絵が見事に完成し、その座敷でエスプレッソカフェとお抹茶のお接待が行われ、襖絵を見ながらのカフェは和やかな空間となりました。他にうどんのお接待や福ひろいなどが境内で行われ、終日、境内一面から笑顔と笑い声が響き渡ったことに、寺は人々が集う所であるということを実感した次第です。

多くの皆さんに支えられ、また本尊様のご加護を大勢の方々に垂れ賜らん事を深く念じ、御礼とさせて頂きます。
有難うございました。

高龍寺住職 鴨井智峯 拝